

1. 報告

スバ・ランカ協会主催のスリランカ・ツアーに参加された方の感想を掲載いたします。ご一読ください。書いてくださった方には紙面を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。感想の続編があると思います。1月の通信をお楽しみに。

M. S. さん

スリランカツアーに参加して

旅行する人にはたぶん二種類あって、事前に行き先の地理や名勝、おいしいものなどに関して念入りに知識を蓄え訪れるタイプと、あえて何もそれら一切のことをせず、その場に行って感じることを重視するタイプ。本来ズボラな私はいつでも、そして今回も明らかに後者でした。理事でもあり現地に一度も足を運んだことがないのもマヅイだろうという自責の念(?)、また、娘を冗談半分で誘ったところ「いいよ」という返事。それでは実際に行かないわけにはいかないだろう、ということで義理の妹も巻き込んで、3人でこのスバランカ主催のスリランカツアーに参加することとなりました。

始めて訪れたスリランカ。あのような新鮮な体験は人生50年の中で始めてのものでした。「新鮮」と最初に出てくる、にもかかわらずなぜかスリランカのこととはまえからよく知っていて、その意味ではむしろ「懐かしい」といった感じ、つまり合い矛盾する感覚が旅行中いつでも同時に与えられることが不思議でした。スリランカは、北海道くらいの狭い国土で、全部で7つの世界遺産、トロピカルなインド洋の海岸から、サファリ、高原までが凝縮され、まさに国全体が宝石箱のような国です。どれもがすばらしく言い尽くせません。また、私にとって特に印象的だったのは田舎とそこに暮らす人々の姿です。その風景は、椰子とコナラを入れ替えればあとは小牧や瀬戸の里山とそれほど違いません。人々は温和で礼儀正しく、子どももお年寄りも、だれもが澄んだ瞳を持っていました。美しい自然の中、ゆっくりとしたテンポの中で暮らす人々をみるにつけ、豊かに暮らすということ、信仰ということ、本当の幸福とは、そんなことを考えさせられる旅でもありました。それに、そうですね、そんな風景と暮らしを私は、むかし少しだけ見たことがあるような気がします。まだ鼻たらしの小僧のとき、故里の村で見ていたように思います。先に「懐かしい」、と言ったのはたぶんそのことが陰に思い出されていたからでしょう。

今回のスリランカ旅行はもちろん大岩先生と現地のダルマさんのガイドがあったからで、なにも心配することなくとにかくスリランカの空港に着けば後は任せておけばよいとおおらかな気持ちでいられたことがなにより周りを見る余裕を私に与えてくれたのだと思います。この場をお借りして感謝いたします。これまで海外旅行といえば西洋ばかりでそちらにしか目が向いていなかった自分。当たり前のように西洋の文化にひたり、その考え方を通して人や自然や社会を観ることが常態化していたようです。いやいや、そんなものに全く引けを取らない、もっと深い大切なものがそこにはある、そう思い起こさせてくれた旅でありました。

N. Y. さん

私は観光というより大げさかもしれませんが、スリランカでの企業お起こしはどのようなかという視点で「人とのかかわりを知りたくて出かけている方がパーセンテージとしては多かった。」のかな、と思います。気負いが多かっただけにダメージも大きく、いま少し何から手を付けたら良いのか解らなくなっています。そんなわけで今は冷却期間です。もう一度自分の中で何が出来るのかを考えてみたいと思っています。現地にじっくりかかわらないと本当の意味での理解は難しい事を実感しました。

反面チャンダヤの育てられている大地に育つ作物の写真を見て、どんな過酷な条件の中でもこのようにたくましく異国の土に根を張りやがて実をつける自然の摂理のすごさにと、力強さを今まで以上に実感しています。又其の野菜や果物に会いに行きたいとは、思います。彼が自分の作った野菜を、自分の店先に並べられるようになるのは何時の事でしょうか。今回の旅の中で感傷的かもしれませんが、力不足を実感しています。旅の感想とは程遠い私の想いです。

補足説明：N.Y.さんは、産業起こしよりも「出稼ぎ」で稼いだほうが手っ取り早いという現地の反応を知りショックを受けられました。この点は私も同様にショックであり、いかにすべきかを模索しています。また、チャンダヤという人物は、N.Y.さんが日本の野菜・果実の栽培を依頼したお百姓です。日本のかぼちゃ、すいかなどを試みに育てています。産業起こしは、農業振興に焦点を絞ったほうがいいのかもかもしれません。議論したいところです。みなさん、どう思われますか。（M.O.）

N. S. さん

それでは、‘スリランカの旅’レポートです。

出発前は私にとってスリランカは未知の国、旅を終え一言で言えば、ディープな国です。北海道の8割程の大きさの国に世界遺産が7つ、内4つを訪れました。どこもすばらしかったのですが、私のいちばんはダンプッラです。色鮮やかな仏像群と壁画は本当にすばらしかったです。あと、多様な自然環境、その中での野生動物との出会い、霧につつまれたどこまでも続く美しい茶畑、色鮮やかで開放的な仏教寺院、自由奔放に街の中をうろつく犬や牛、椰子の木が生い茂る美しいインド洋のリゾート、雑然とした街並み、所々に残るヨーロッパ風の建物や遺跡、子供たちのかわいい笑顔、人々のおだやかでのんびりとした姿。どの場所も光景も印象深いものばかりです。次は何を見せてもらえるのかと思いながら、ガタガタ道を走る車にゆられていたのを思い出します。

スリランカの歴史、仏教などの知識があればもっと奥深い旅になっただろうと思います。交流会では、あたたかいおもてなしを受け、学生さんたちと楽しい時間を過ごすことができました。思い切って行ってよかったです。是非、もう一度訪れてみたいです。もう少し、この国を観光という面から、日本人に知ってもらいたいと思いました。それには、内戦が終結することが必要なのでしょうか。

最後に、この国を訪れるきっかけを作ってくくださった方々、旅行中お世話になりました方々に感謝したいと思います。

スリランカのカレーは、めっちゃ、ホットで、グ〜でした。

※ 交流会：サバラガムワ大学の日本語センターの学生10数名と2時間ほど歓談しました。

(M.O.)

2. 連絡

1月24日（土）有志による資金集めについての会議（新年飲み会）、2月14日（土）総会、を予定。詳しくは、1月の通信でお知らせします。ご予約ください。今年1年ご協力ありがとうございました。心から感謝。良いお年をお迎えください。